

# SCHEDULE

東京都写真美術館展覧会スケジュール

2011	3階展示室	2階展示室	地下1階展示室	1階ホール
12	 ストリート・ライフ ヨーロッパを見つめた7人の写真家たち 12月10日(土)～1月29日(日)	 ©Ken Kitano 日本の新進作家展vol.10 写真の飛躍 12月10日(土)～1月29日(日)	 映像をめぐる冒険vol.4 見えない世界のみつめ方 12月13日(火)～1月29日(日)	 ウィーン・フィル&ティレマン ベートーヴェン全交響曲 シネコンサート 12月10日(土)～12月28日(水)  『新春ハワイアン・フィルム・コレクション』(仮) 1月2日(月・祝)、3日(火)、5日(木)、6日(金)
1				 『今日と明日の間で』 1月7日(土)～1月29日(日)
2	第4回恵比寿映像祭 映像のフィジカル 2月10日(金)～2月26日(日)			
3	 幻のモダニスト 写真家堀野正雄の世界 3月6日(火)～5月6日(日)	 ©The J. Paul Getty Museum, Los Angeles, Partial gift from the Wilson Centre for Photography J・ポール・ゲティ美術館展 フェリーチェ・ベアトの東洋 3月6日(火)～5月6日(日)	APAアワード2012 3月3日(土)～3月18日(日)	 © 2010 Magnifique Creative Media Production Ltd. Co. All rights reserved 『父の初七日』 3月3日(土)～
4			 生誕100年記念 ロバール・ドアーノ写真展 『RETROSPECTIVE』(仮称) 3月24日(土)～5月13日(日)	
5			JPS展 5月19日(土)～6月3日(日)	
6	 平井輝七 月の夢想 1938年 コレクション展「技法と表現」(仮称) 5月12日(土)～7月8日(日)	 『Illuminance』より 2009年 川内倫子展(仮称) 5月12日(土)～7月16日(月・祝)		
7	 コレクション展「技法と表現」(仮称) 7月14日(土)～9月17日(月・祝)	 田村彰英展(仮称) 7月21日(土)～9月23日(日)	世界報道写真展2012 6月9日(土)～8月5日(日)	

**ご利用案内**

2012年1月2日(月・祝)・3日(火)は年始特別開館  
 ●休館日：毎週月曜日(月曜日が祝日の場合、その翌日)、年末年始(12月29日～2012年1月1日)  
 2012年1月4日、2012年1月30日～2月9日、2月27日～3月2日  
 ●開館時間：10:00～18:00(木・金は20:00まで) **ただし、2012年1月2日・3日は11:00～18:00**  
 入館は閉館の30分前まで

**割引チケットの販売** お得な割引料金で2会場以上を自由に組み合わせてご覧いただける割引チケットを販売しております。詳しくはチケット売り場でおたずねください。



※本誌編集ページに掲載されている観覧料および商品の価格は、原則として消費税込みの価格です。  
 東京都写真美術館ニュース「アイズ11」72号 ●発行日：2011年12月9日 / 企画・編集：東京都写真美術館事業企画課 普及係  
 ●印刷・製本：JT印刷株式会社 ●発行：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 ©2011 ●本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。



**eyes**  
 | 2011 Vol.72 |

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY  
 NEWS MAGAZINE



ジェームズ・ロバートソン、フェリーチェ・ベアト スルタンアフメト・モスク  
1853-1857年 鶏卵紙 J・ポール・ゲティ美術館蔵



フェリーチェ・ベアト 第93高地連隊と第4パンジャブ連隊による2千人の反乱兵  
虐殺後のシカンダルバー宮殿の内部。1857年11月のサー・コリン・キャンベルに  
よる最初の攻撃 1858年 鶏卵紙 J・ポール・ゲティ美術館蔵



フェリーチェ・ベアト フサイナーバード・イマームバラ宮殿とモハメッド・アリ・カーン  
の墓。1858年3月のサー・コリン・キャンベルによる2回目の攻撃[ラクナウ]  
1858年 鶏卵紙 J・ポール・ゲティ美術館蔵



フェリーチェ・ベアト 最初に公式文書を持ってきた朝鮮のジャンク  
1871年5月30日 鶏卵紙 J・ポール・ゲティ美術館蔵

TOPICS

J・ポール・ゲティ美術館展

# フェリーチェ・ベアトの東洋

Felice Beato: A Photographer on the Eastern Road

1832年にイタリアで生まれ、トルコで写真技術を学び、激動するアジア諸国を撮り続けたフェリーチェ・ベアト。日本では幕末期をとらえた作品で知られる彼は、戦争、建築、風俗、風景、肖像など幅広い分野で写真史に名を刻んでいます。本展は、その全キャリアに迫るレトロスペクティブでJ・ポール・ゲティ美術館(ロサンゼルス)の国際巡回展です。日本では、当館コレクションを含む145点の作品を通じて、初めてその生涯を概観します。

19世紀後半に中東から東南アジアを駆け抜けた写真師、フェリーチェ・ベアト(1832~1909)。彼はインド、中国、日本、朝鮮、ビルマという19世紀後半に開国した国々のイメージを西欧世界に伝えた主要な写真師の一人です。また、1855~1856年のクリミア戦争、1858~

1859年におけるインド大反乱(セポイの乱)、1860年の第二次アヘン戦争、1864年の下関戦争、1871年の辛未洋擾しんみようじょうなど、東洋における国際紛争を記録した戦争写真のパイオニアでもあります。彼によって初めて戦場の死体が撮影され、戦場のリアリティが提供されました。

India  
1858-60

出品点数: 145点(予定)  
初期作品: 1855-57年頃  
インド: 1858-1860年 中国: 1860年  
日本: 1863-1884年 朝鮮: 1871年  
ビルマ: 1887-1905年

さらにパノラマ写真を含むランドスケープや建築、人々の肖像など多様な写真作品を欧米に提供したのです。ベアトと写真の関わりは、1855年に義理の兄弟となったジェームズ・ロバートソンのもと、コンスタンティノープル(現トルコ)で始まったと考えられています。ロバートソンはコンスタンティノープルで最初期の商業写真スタジオを開いた人物で、2人は1600年代に建てられたスルタンアフメト・モスクやイスラム時代の建築物に焦点をあてて写真を撮りました。この時、ベアトはロバートソンから、正確で綺麗なイメージを与えてくれる鶏卵ガラスネガ方式の技法を習得。そして1856年、クリミア戦争の戦地でロバートソンの

助手を務め、その経験が彼の将来を決定づけたのです。1857年、インドがイギリスの植民地支配に抵抗したインド大反乱が勃発しました。1858年2月にインドに到着したベアトは、クリミア戦争での経験から軍将校と関係を築き、反乱の拠点で撮影、写真を編集してキャプション(写真に添える説明文)も執筆しました。この時、彼は劇的な効果を高めるため、反乱軍兵士の人骨を追加して撮影しています(上の写真・左から2番目)。1860年、中国に渡ったベアトは、第二次アヘン戦争の最終的な戦闘において、フランスとイギリスの軍隊に同行します。8ヶ月にわたる行軍において、彼は鶏卵ガラスネガ方式に必要な化学薬品や壊れやすい多数のガラス板などの機材を運び、戦場の過酷な条件下で陰惨なシーンを含む軍事行動の進捗状況を記録しました。その後、ベアトは日本を訪れ、1863年から1884年まで20年以上にわたって滞在しました。日本は彼の生涯で最も長く滞在した国であり、もっとも多作な時期を

Early Work,  
about 1855-57

China  
1860

フェリーチェ・ベアト 愛宕山から見た江戸のパノラマ[部分] 1863-64年 鶏卵紙 東京都写真美術館蔵





フェリーチェ・ベアト 朝鮮軍將軍旗「帥字旗」  
1871年6月 鶏卵紙 J・ポール・ゲティ美術館蔵



フェリーチェ・ベアト カチン族の女性  
1887-1893年 鶏卵紙 J・ポール・ゲティ美術館蔵



フェリーチェ・ベアト ザガイン寺院内の49体の釈迦像  
1887-1895年 鶏卵紙 J・ポール・ゲティ美術館蔵

過ぎました。彼は日本が江戸幕府から明治政府へ移りゆく激動の時代を目撃し、写真として記録したのです。また、彼は日本滞在中に、感度が高く露光時間を短縮できるコロディオン湿板方式へと写真方式を転換しました。この技術による手彩色写真やアルバムが西洋へ発信されると一躍人気を呼び、ベアトを成功へと導いたのです。

日本滞在中の1871年、ベアトは朝鮮でも撮影を行っています。この時代の朝鮮は諸外国との国交がなく、朝鮮における最初の写真制作がベアトの手によるものでした。辛未洋擾(アメリカの武装商船を巡る事件を発端とする米韓戦争)を撮影するため米軍に雇われた彼は、米軍が戦争の火蓋を切るや軍事作戦を記録し、47点の写真を残します。史実として、この戦争は米軍の大敗に終わります。しかし、彼は米軍から雇われていたため、あたかも米軍が勝利したかのように撮影し、記録を制作したのです(左上の写真)。

1877年、ベアトは写真館のネガから顧客までをライム

ト・フォン・スティルフリードに譲り渡し、不動産等の投機ビジネスに転身しました。しかし、1884年に大きな損失を受け、彼は20年余りを過ごした日本をあとにしました。ベアトが写真家として返り咲くのは、3年後の1887年のことです。彼はまず第三次英緬戦争を記録するためスーダンへ行き、イギリス統治下のビルマに滞在。この地が西洋人の観光地となると、ビルマ北部の至る所で撮影を行い、土産物店で作品を販売し、写真家としての地位を確立したのです。1905年までビルマで制作した景観写真や建築写真、肖像写真の数々は、19世紀末のこの地における生命の輝きを見事に写し出しています。

1909年1月9日、フェリーチェ・ベアトは、波瀾万丈の放浪生活の末、フィレンツェで永眠しました。イタリアのヴェネツィアで生まれ、フィレンツェで没するまで、アジア全域を駆け巡った漂泊の写真師。繊細さと剛胆さを併せ持つベアトの気質と才能は、朽ちることのない作品として、写真の歴史に深く刻み込まれています。

2F

2階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引 三越カード割引 アトレビュー-Suicaカード割引

3月6日(火) → 5月6日(日)

## J・ポール・ゲティ美術館展 フェリーチェ・ベアトの東洋 Felice Beato: A Photographer on the Eastern Road

□ 一般 800(640)円 □ 学生 700(560)円 □ 中高生・65歳以上 600(480)円

( )は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金  
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催:公益財団法人東京歴史文化財団 東京都写真美術館/東京新聞  
□ 協賛:アメリカ大使館/凸版印刷株式会社/アサヒビール芸術文化財団/東京都写真美術館支援会員 他

19世紀後半の激動する東洋を駆け抜けた、漂泊の写真師フェリーチェ・ベアト。インド、中国、日本、朝鮮、ビルマという19世紀後半に開国した国々のイメージを西欧世界に伝えた彼は、クリミア戦争、インド大反乱、第二次アヘン戦争、下関戦争、辛未洋擾など東洋における国際紛争を記録した、戦争写真のバイオニアとしても知られています。彼は戦争のリアリティとして戦場の死体を撮影した最初の写真家であり、パノラマ写真を含む建築写真や地形写真、アジア諸国の人々の肖像写真など多様な写真作品を欧米に提供した、多才な写真家の一人でもあるのです。

これまで紹介されてきたベアトの作品は、日本国内のイメージを中心とするものでした。しかし、2010年12月からロサンゼルス市のJ・ポール・ゲティ美術館で開催された国際巡回展“Felice Beato: A Photographer on the Eastern Road”(キュレーター/アン・ラコステ)は、2007年にウィルソンセンターよりゲティ美術館へ寄贈された800点以上のベアト・コレクションから、彼のキャリア全体をカバーする視点で構成されており、多くの日本未公開作品が展示されました。その東京会場となる本展では、ゲティ美術館での展示作品に当館コレクションを加えた145点(予定)を展示。ベアトがその40年以上のキャリアで制作した写真作品を幅広く展示し、彼の“生涯”を概観する日本で初めての展覧会となります。

※企画機関のオリジナルティを尊重するため、19世紀の国名および地名を表記しております。

【表紙】フェリーチェ・ベアト 冬着姿の女性  
1868年頃 素鶏卵紙に手彩色 J・ポール・ゲティ美術館蔵

【表紙、P1-4の図版は全て ※P1-2の下段の図版は除く】  
Courtesy of The J. Paul Getty Museum, Los Angeles,  
Partial gift from the Wilson Centre for Photography



フェリーチェ・ベアト 長弓を持つ侍  
1863年 鶏卵紙 J・ポール・ゲティ美術館蔵

☒ 担当学芸員によるフロアレクチャー 第1・3金曜日 16:00~  
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

☒ 展覧会関連イベントを予定しています。  
※詳細は決定次第、ホームページで発表します。

This exhibition has been organized by the J. Paul Getty Museum, Los Angeles.

# 第4回恵比寿映像祭

Yebisu International Festival for Art & Alternative Visions

## 映像の フィジカル How-Physical



[主催] 東京都／東京都写真美術館・東京文化発信プロジェクト室  
(公益財団法人東京都歴史文化財団)／日本経済新聞社  
[共催] 恵比寿ガーデンプレイス株式会社 [後援] J-WAVE 81.3FM  
[協賛] オーストリア大使館／オーストリア文化フォーラム／東京都写真美術館支援委員会  
[協力] NECディスプレイソリューションズ株式会社／Kyoto DU／びあ株式会社／エキサイトイズム株式会社北山創造研究所／株式会社トリプルセブン・インタラクティブ／株式会社ロボット

### 2.10fri - 2.26sun/2012

《15日間 ※月曜のみ休館》

10:00 ~ 20:00 (2月26日最終日のみ18:00まで)

東京都写真美術館／

恵比寿ガーデンプレイス センター広場／ザ・ガーデンルームほか

[www.yebizo.com](http://www.yebizo.com)

## 映像のフィジカル How Physical

今年のテーマは「映像のフィジカル」。映像は、フィジカル[物質的、身体的]なもので(も)あるという基本に立ち返ってみます。映像が、物質的なさまざまな要件(人、社会、環境、ハードウェア、メディア、撮影技術、経済、流通システム、エネルギー供給...)に依存し左右される存在であることをあらためて考えつつ、映像を通じて体感する経験や知覚といった身体との関わりから映像をとらえなおす視点を、国内外のさまざまなアーティストの作品とともに、幅広く提示します。

### 恵比寿映像祭とは?

恵比寿映像祭は、年に一度、15日間にわたり東京都写真美術館全館を使って、展示、上映、ライブ・イベント、トークセッションなどを複合的に行うことを通じて、映像分野における創造活動の活性化と優れた映像表現やメディアの発展を過去から現在、そして未来へといかに継承していくかという課題について、あらためて問い直し、対話を重ね、広く共有する場となることを目指します。



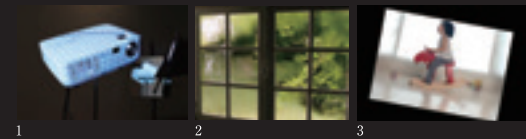
### 東京文化発信 プロジェクトとは

東京文化発信プロジェクトは、「世界的な文化創造都市・東京」の実現に向けて、東京都と東京都歴史文化財団が芸術文化団体やアートNPO等と協力して実施しているプロジェクトです。都内各地での文化創造拠点の形成や子供・青少年への創造体験の機会の提供により、多くの人々が新たな文化の創造に主体的に関わる環境を整えるとともに、国際フェスティバルの開催等を通じて、新たな東京文化を創造し、世界に向けて発信していきます。

## 展示

東京都写真美術館 3階、2階、地下1階展示室  
(入場無料)

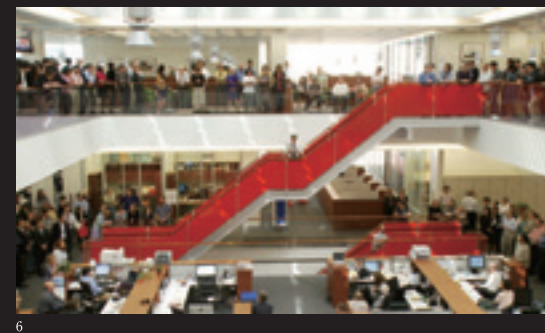
【出品予定作家】ユリウス・フォン・ビスマルク(ドイツ)／伊藤隆介(日本)／ヨハン・ルーフ(オーストリア)／前沢知子(日本)／大木裕之(日本)／スッチェラット・スバリンヤ(タイ)／鈴木了二(日本)／カロリン・ツニス&ブラム・スナイダースSitd(オランダ)／マライケ・ファン・ヴァルメルダム(オランダ)／ユエン・グアンミン(台湾)ほか



1. カロリン・ツニス&ブラム・スナイダース、Sitd《RE》2010 ©Carolien Teunisse and Bram Snijders [Sitd]
2. マライケ・ファン・ヴァルメルダム《イン・ザ・ディスタンス》2010 協力:タカ・イキギャラリー、東京
3. ユエン・グアンミン《微笑む木馬》2011 協力:TINA KENGギャラリー、台北
4. 伊藤隆介《Film Studies オデッサの階段》2006 東京都写真美術館蔵
5. ヨハン・ルーフ《すばしこい茶色の狐が逃げ犬を飛び越す》2009

## 上映

東京都写真美術館 1階上映ホール  
(有料:チケット制)



6

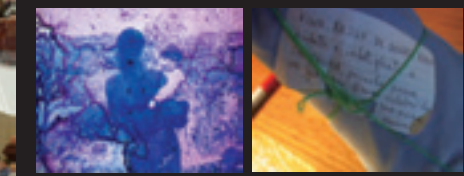


4



5

【出品予定作家】青山真治(日本)／分藤大翼(日本)／ビップ・チョードロフ(アメリカ・フランス)／川瀬慈(日本)／ク・ドンヒ(韓国)／マーク・レイス(カナダ・イギリス)／ジョナス・メカス(リトアニア・アメリカ)／カート・モーガン(アメリカ)／長島寛幸(日本)／大木裕之(日本)／アンドリュー・ロッシ(アメリカ)ほか  
【ゲスト・プログラマー】ジム・オルーク(アメリカ・日本)／鈴木了二(日本) リンク先組織:アンソロジー・フィルム・アーカイヴス(アメリカ)／仙台短編映画祭(日本)ほか



6. アンドリュー・ロッシ《ページワン ニューヨーク・タイムズの内側》2011
7. ビップ・チョードロフ《フリー・ラディカリス》2010 © Pip Chodorov
8. ジョナス・メカス《スリープレス・ナイツ・ストーリー》2011 ©Jonas Mekas

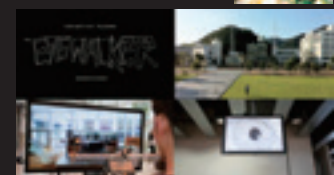
### オフサイト展示

恵比寿ガーデンプレイス  
センター広場(無料)

【出品予定作家】

エキソニモ  
[千原けん輔・赤岩やえ]

上) ©exonemo  
下) Photo:山口情報芸術センター  
[YCAM], exonemo[参考図版]



### イベント

- シンポジウム (東京都写真美術館 1階上映ホール)
- ラウンジトーク (東京都写真美術館 2階ラウンジ)
- レクチャー (東京都写真美術館 1階アトリエ)
- ライヴ (ザ・ガーデンルーム) など予定

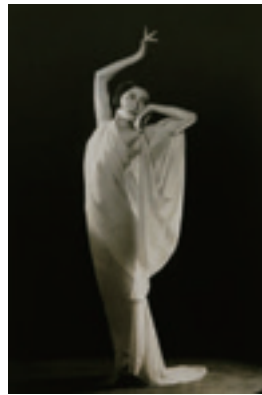


第3回恵比寿映像祭 ライヴ・イベントの様子より

### 地域連携プログラム

【参加施設・団体】公益財団法人日仏会館／日仏メディア交流協会／NADiff a/p/a/r/t/MEM/G/P gallery/ TRAUMARIS/MAGIC ROOM??/ TOKIO OUT of PLACE/MA2 Gallery/ ギャラリー工房親/amu/ 特定非営利活動法人アーツ・イン・アジア・アーツ・イン・ウキョウ [AIT/エイ] /gift\_lab/waitingroom/LIBRAIRIE6/limArt

※内容及び出品作家については、予告なく変更となる場合があります。予めご了承ください。



		4	
1		5	8
		6	
2	3	7	9

- 1) 《題不詳(着物のモード)》  
1934~38年
- 2) 《大東京の性格》  
編輯・板垣廣穂、『中央公論』  
1931年10月号より
- 3) 《優秀船に関する研究》  
1930~31年  
『カメラ・眼×鉄・構成』より
- 4) 《乞食》1932年
- 5) 《ポーズ(崔承喜)》1931年
- 6) 《女学生の行進》「ガスマスク行進、  
東京」より、1934~39年
- 7) 《横山大観》1934~39年
- 8) 《風(2)》1936年
- 9) 《朝鮮風俗》1938年頃

※作品タイトルは発表時  
によります。( )内は補  
足の説明です

本展の図録は国書刊行会より発行されます

3F

友の会無料 | 三越カード割引 | アトレビュー-Suicaカード割引  
3階展示室 Exhibition Gallery

3月6日(四) → 5月6日(日)

## 幻のモダニスト 写真家堀野正雄の世界

□ 一般 700(560)円 □ 学生 600(480)円  
□ 中高生・65歳以上 500(400)円

( )は20名以上の団体、当館の映画鑑賞券ご提示者、  
上記カード会員割引料金  
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料  
※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催：東京都 東京都写真美術館 / 読売新聞社 /  
美術館連絡協議会 □ 協賛：ライオン / 清水建設 / 大日本印刷 /  
損保ジャパン / 日本テレビ放送網

日本の近代写真の成立と展開を語る上で欠かすことのできない、新興写真の旗手として知られる堀野正雄(1907-2000)。その強烈なまでの個性に満ちあふれた作風により、写真家としての名前は知られていますが、実際の活動の軌跡と評価、位置づけは不十分なものと言わざるを得ませんでした。しかし近年、若い世代の写真史研究者はもとより、デザイン史やメディア史の研究者が強い関心を寄せており、その成果も見えはじめています。

本展は、「幻の写真家」ともいべき堀野正雄の仕事の全体像を明らかにすることによって、1930年代を中心とする写真史にあらたなヴィジョンを構築する展覧会です。1920年代の築地小劇場を中心とする舞台写真やポートレート、舞踊家の写真などにはじまり、写真集『カメラ・眼×鉄・構成』、『犯罪科学』誌を中心とするグラフィック・モンタージュ、『NIPPON』や『主婦の友』、『婦人画報』などに発表した報道写真に至るまで、遺族の所有する初公開のオリジナル・プリント作品約100点を中心に、関係資料など併せて200点以上を展示し、戦前の堀野正雄の活動を一望します。日本写真史に重要な位置を占める堀野の全貌に初めて迫る本展は、偉大なる近代写真家の視線とその時代性を体感すると同時に、新しい世代にも注目されているモダニズムの感覚を十二分に堪能できることでしょう。

### 展覧会関連イベント

期間中、堀野正雄の現代的意義をめぐってのシンポジウムを開催します。  
※詳細につきましては決定次第ホームページで発表します。

### 担当学芸員によるフロアレクチャー

第2・4金曜日 16:00~  
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

2F

2階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引 三越カード割引 アトレビュー-Suicaカード割引

12月10日(土) → 2012年1月29日(日)  
1月2日・3日は年始特別開館日本の新進作家展 vol.10  
**写真の飛躍** そこに原点がある。

elan photographic - Contemporary Japanese Photography

□ 一般 700(560)円 □ 学生 600(480)円 □ 中高生・65歳以上 500(400)円

( )は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金  
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 / 東京新聞 □ 協賛：株式会社資生堂 / 凸版印刷株式会社 / 東京都写真美術館支援会 □ 協力：有限会社フォトグラフィーズ・ラボラトリー / 株式会社カシマ / 株式会社office if

本展はフォトグラム、ピンホールカメラ、コラージュ、多重露光など、写真の根源的な手法や特性を生かして現代のさまざまな事象と向き合う5人の新進作家を最新作とともに紹介します。受け身にならず、自発的に写真を見て、その中に思考の種を見つけたとき、写真は新たな飛躍を迎えます。彼らの作品は感覚や感性の扉を開く大きな契機となるでしょう。

## ❖ 出品作家とゲストによる対談 1階アトリエ(定員50名)

12月10日(土) 佐藤時啓(美術家・写真家)×佐野陽一  
12月11日(日) 山崎博(写真家)×添野和幸  
12月17日(土) 中島英樹(アートディレクター、グラフィックデザイナー)×春木麻衣子  
2012年1月14日(土) 大竹昭子(文筆家)×北野謙  
2012年1月21日(土) 藤森照信(建築家)×西野社平  
※各日とも15:00~16:30、本展覧会の半券と整理券が必要です。  
詳細はホームページをご確認ください

❖ 担当学芸員によるフロアレクチャー 第2・4金曜日 14:00~  
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

❖ 新春フロアレクチャー 1月2日(月・祝)3日(火) 各日11:30~12:15

〈our face〉より(アニメのコスプレの少女たち34人を重ねた肖像 / 台北のストリートで)  
2009年(2010年プリント) ©Ken Kitano Courtesy of MEM



B1F

地下1階展示室 Exhibition Gallery

友の会無料 三越カード割引 アトレビュー-Suicaカード割引

12月13日(火) → 2012年1月29日(日)  
1月2日・3日は年始特別開館映像をめぐる冒険vol.4  
**見えない世界のみつめ方**

Quest for Vision vol.4 BEYOND THE NAKED EYE

□ 一般 500(400)円 □ 学生 400(320)円 □ 中高生・65歳以上 250(200)円

( )は20名以上の団体、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金  
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催：東京都 東京都写真美術館 / 産経新聞 □ 支援：文化庁メディア芸術人材育成支援事業  
□ 協賛：凸版印刷株式会社 □ 協力：NECディスプレイソリューションズ株式会社 / 日本科学未来館 / 株式会社ライゾマティクス / 株式会社学研教育出版 □ 後援：サンケイスポーツ / タ刊フジ / フジサンケイビジネスアイ / iza! / SANKEI EXPRESS

ガリレオ・ガリレオが地動説を説いた資料から、NASAの宇宙飛行の写真まで、人間がどのように見る世界を拓いてきたのか、その進化の軌跡について当館コレクションを含む貴重な資料で一覧します。また、新しい世界のみつめ方を探る市川創太(doubleNegatives Architecture[dNA])、小阪淳、鳴川肇の3組の現代作家によるインスタレーションから、私たちが認識している世界と世界の有り様との関係を考えます。



〈VIT (Ver.1.5)〉小阪淳 2009年

## ❖ 出品作家とゲストによる特別対談シリーズ

12月25日(日) 市川創太(dNA)×平田晃久(建築家)  
2012年1月8日(日) 小阪淳×飯田和敏(ゲームクリエイター)  
2012年1月22日(日) 鳴川肇×田中良治(Webデザイナー)  
※各日とも15:00~16:30、入場無料 ※整理券が必要です  
1階アトリエ(定員70名) 詳細はホームページをご確認ください

## ❖ スペシャル・ライブ「科学史のタブ × SPACE SOUND」

2012年1月7日(土) 16:00~17:30 2階ラウンジ(定員50名)  
嘉数次人(大阪市立科学館主任学芸員) × 宮本朝子(音楽家)  
入場無料 ※どなたでもご参加いただけます

❖ 担当学芸員によるフロアレクチャー 第1・3金曜日 14:00~  
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

❖ 新春フロアレクチャー 1月2日(月・祝)3日(火) 各日14:00~14:45

3F

3階展示室 Exhibition Gallery

友の会無料 三越カード割引 アトレビュー-Suicaカード割引

12月10日(土) → 2012年1月29日(日)  
1月2日・3日は年始特別開館**ストリート・ライフ** ヨーロッパを見つめた7人の写真家たち

Street Life: Chronicles of Europe by Seven Photographers

□ 一般 600(480)円 □ 学生 500(400)円 □ 中高生・65歳以上 400(320)円

( )は20名以上の団体、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金  
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催：東京都 東京都写真美術館

写真による社会的な記録は、写真史初期の19世紀から行われてきました。アメリカが社会改良の手段として活用したのに対し、複雑な文化構造をもつヨーロッパでは急速な近代化によって変貌してゆく都市の姿を、写真によって後世に残そうとする精神が盛んでした。本展では写真先進国といえるイギリス、フランス、ドイツの7人の写真家の名作や問題作約160点を展示。ヨーロッパのソーシャル・ドキュメンタリーの記録精神を探ります。

## ❖ 出品作家

- トーマス・アナン
- ジョン・トムソン
- ビル・ブランド
- ウジェーヌ・アジェ
- ブラッサイ
- ハイリッヒ・ツィル
- アウグスト・ザンダー

本展の図録は美術出版社より発行されます(2,300円・税込)

アウグスト・ザンダー  
若い農夫たち 1914年

写美のお正月  
2012

2012年は1月2日(月・祝)より開館!

1月2日(月・祝)・3日(火)はたのしいイベントがいっぱい!

1月2日(月・祝)は展覧会が  
1月3日(火)は入場料が2割引になります入場  
無料

開館時間 1月2日(月・祝)・3日(火)は11:00~18:00  
4階図書室は1/5より開室  
※詳細は裏表紙のご利用案内をご覧ください

おめでとう写美クイズ 空くしなし

クイズに答えてすてきな写美グッズを当てよう!  
【抽選場所】2階総合カウンター  
※1/2はどなたでも参加可。1/3はチケット  
購入時にクイズ用紙をお渡します

## 新春フロアレクチャー

出品作家と学芸員が展示を解説します

1月2日  
(月・祝)・  
3日(火)

## 「写真の飛躍」

各日11:30~12:15 【場所】2階展示室  
【出品】1月2日 西野社平、北野謙、春木麻衣子  
【作家】1月3日 添野和幸、佐野陽一

## 「見えない世界のみつめ方」

各日14:00~14:45 【場所】地下1階展示室  
【出品】小阪淳、doubleNegatives Architecture  
【作家】[dNA]、鳴川肇(3作家とも両日来館します)

(1/2はどなたでも参加可。1/3は当日の観覧チケットの半券をお持ちの方は参加可)

## しゃび雅楽 無料

日本の伝統音楽である雅楽で新春をお祝いします。

1月2日(月・祝)・3日(火) 【場所】  
2階エントランス前ロビー  
各日13:00~15:00~ 【出演】橋雅友会

1階ミュージアムショップ  
「ナディッフ バイテン」

福袋 3,000円(税込)

写真集やすてきな雑貨など、約2万円相当の商品がはいった毎年大好評の福袋です。(限定25個)

## 1階カフェ「シャンブル クレール」

ベルギー生ビール  
「サンフーヤンノエル」

1杯 1,100円(税込)

冬季限定のベルギー直輸入生ビールは、まろやかでコクのある味わいです。(無くなり次第終了)

\*最新情報はホームページ <http://www.syabi.com> でご確認ください。

B1F

地下1階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引 三越カード割引 アトレビュー-Suicaカード割引

3月24日(日) → 5月13日(日)

# ROBERTO DOISNEAU

## 生誕100年記念 ロベール・ドアノー写真展 「RETROSPECTIVE」(仮称)

□ 一般 800(640)円 □ 学生 700(560)円 □ 中高生・65歳以上 600(480)円

( )は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金  
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催・企画：クレヴィス

ロベール・ドアノーは、生来の自由な精神と類まれな洞察力で日常の小さなドラマをとらえ、「ドアノー劇場」とでもいべき独自の世界によって写真史上に大きな足跡を残しました。稀代の演出家ともいえるドアノーが作り出した軽妙洒落な人間ドラマは、忌憚のない人間賛歌として見るものを幸福感に満ちた世界へいざない、時代を超えて多くの人々に愛され続けています。人間に対する際限のない愛情と好奇心が生み出す忍耐と視線、写真表現に対する飽くなき実験精神。作品のどれもが、「写真の世紀」ともいわれた20世紀を見事に反映しています。

そんなドアノーの生誕100年にあたる2012年を機に、彼の残したネガ・作品を管理保管するアトリエ・ロベール・ドアノーの全面協力のもと、その業績を一望にする

大規模な回顧展です。約40万点にも及ぶネガから精選した展示品約200点は、ドアノーの代名詞ともいえるパリを舞台にした作品群はもとより、1920年代の初期作品から、ドアノーの原点ともいえるパリ郊外の緻密な情景、第二次大戦中に自らもレジスタンスとして戦った抗独地下活動の記録、各界著名人たちのポートレート、子どもたち、さらに初公開となるカラー作品などを網羅。生涯、「自分は芸術家ではない」と言い続けた偉大なるヒューマニズム写真家、ロベール・ドアノー創造の秘密に迫ります。

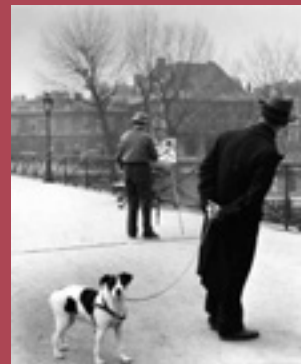
### ✂ 展覧会関連イベント

※詳細につきましては決定次第ホームページで発表します。

◎お問い合わせ ☎ クレヴィス 03-5784-2466



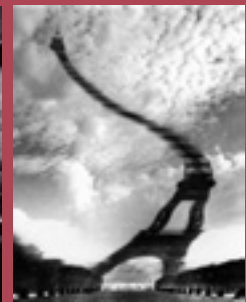
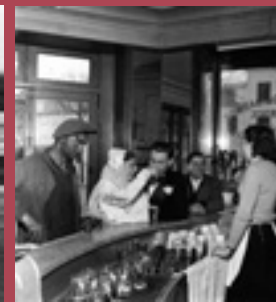
パリ市庁舎前のキス、1950年



1

2

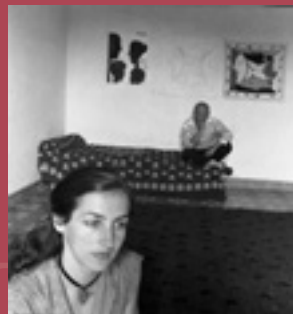
3



4

5

6



7

8

9

1) 増水した側溝、1934年 2) 雪合戦、芸術橋、1945年 3) 芸術橋上のフォックステリア、1953年 4) リヴォリ通りのスモック姿の子供たち、1978年 5) カフェ・ノワール・エ・プラン(黒と白)、1948年 6) 光学的な歪み、1965年 7) パリ祭のラストワルツ、1949年7月14日 8) ピカソとフランソワーズ・ジロー、1952年 9) アルジャントウイユ、ヴァルドワーズ、1984年「DATAR(国土整備庁)の任務によるシリーズ」より

Film

『ウィーン・フィル&ティーレマン ベートーヴェン全交響曲 シネコンサート』

ベートーヴェンの全交響曲を一挙上映！

世界で最も注目される指揮者クリスティアン・ティーレマンとウィーン・フィルハーモニー管弦楽団が、ムジークフェラインザールを舞台に2008年から3年の年月をかけて取り組んだベートーヴェン全交響曲演奏会。「21世紀のスタンダードとなる演奏」と絶賛されたその白熱のライブ演奏を、劇場スクリーンにて一挙上映します。



© ORF Ali Schaffer

楽画会事務局 03-3498-2508

○上映スケジュール：2011年12月10日(土)～12月28日(水) 月曜休映 ○上映時間：詳細はホームページをご確認ください。

○料金：一律 2,300円 各種割引なし ※未就学児の入場は不可。※全席自由席 ※定員入替制 【映画公式ホームページ】http://gakugakai.com/9/

Film

『今日と明日の間で』

孤高のトップダンサーに初めてカメラが迫る！

モーリス・ベジャールをはじめとする世界的振付家たちを虜にした、孤高のトップバレエダンサー首藤康之。これまで多くを語らなかつた彼の素顔に迫るとともに、新作ソロダンス「Between Today and Tomorrow」をスクリーンで初披露。椎名林檎のオリジナル曲とともに、2010年の全ステージと稽古風景が一挙に蘇る!!



© 2011 スタイルジャム

スタイルジャム 03-5771-3566

○上映スケジュール：2012年1月7日(土)～1月29日(日) 休映日：1月10日(火)、16日(月)、23日(月) ○上映時間：未定

○料金：一般1,800円 / 学生1,500円 / シニア・中学生以下、障害者手帳をお持ちの方1,000円 ※詳細はホームページをご確認ください。 【映画公式ホームページ】http://kyo-asu.com/

カフェ『シャンブル クレール』

1F

営業時間 10:00～20:00 (日曜日は18:00) ○お問い合わせ：Tel.03-5798-2218

白胡麻とハチミツ、生クリームの相性は抜群です!胡麻好きなあなたのためのフレンチトーストです。セサミフレンチトースト 700円(税込)



ミュージアムショップ『ナディッフ バイテン』

1F

営業時間 10:00～18:00 (木・金は20:00、土は18:30) ○お問い合わせ：Tel.03-3280-3279

2012年の主な展覧会の写真を使用した卓上カレンダーです。2種類の表紙はポストカードになります。1,365円(税込)



友の会 Support

展覧会のご招待・割引、1階ホールの上映映画や関連施設の割引など特典を多数ご用意して、皆様のご入会をお待ちしております。

年会費 個人会員 2,000円 家族会員(同伴者1名まで) 3,000円 シルバー会員(65歳以上の方) 1,000円

※受付は当館1階チケットカウンター横の「友の会カウンター」のみとなっております。 ※会員証の有効期限は、翌年の同月末日までです。 ※詳細は当美術館までお問い合わせください。 Tel.03-3280-0099(開館時間中)

Table with 2 columns: 友の会特典, 特典内容. Includes items like 収蔵展・映像展 (無料), 企画展・誘致展 (割引), ミュージアムショップ (5%引き), and others.

支援会員 Corporate Members

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、次の企業・団体に支援会員としてご入会いただきました。

- List of corporate members including: 特別賛助会員 (鹿島建設, キヤノン, etc.), 特別支援会員 (キヤノンマーケティングジャパン, 大日本印刷, etc.), and 支援会員 (I&S BBDO, アイデム, etc.).

(株)=株式会社、(有)=有限会社、(社)=社団法人、(学)=学校法人

(平成23年11月現在・五十音順)